

平成27年10月9日

研修報告書

松戸市議会議員
大塚 健児

研修:八戸ポータルミュージアム「はっち」について
視察先:青森県八戸市
主催:建設経済常任委員会
日時:平成27年10月9日(木) 10時~11時半
場所:八戸ポータルミュージアム
次第:1. 第2期八戸中心市街地活性化基本計画について
2. 「はっち」のあらまし

【研修報告】

建設経済常任委員会で青森県八戸市の視察に行きました。視察内容は『ポータルミュージアムはっちについて』です。

「はっち」は、市民の新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指して作られたものです。



玄関をくぐるとまるでホテルのようなつくり....。

そこでは市民が自由にかつそれぞれの活動をしている様子が伺えました。

1. 第2期八戸中心市街地活性化基本計画について

- 平成20年~平成22年 第1期中心市街地活性化計画認定取得後、丸福商事の破たん、中心市街地歩行者減全国一位、八戸スカイビル債権者破産手続き申立て。いったん医療・福祉ビルが白紙となり、計画の目標達成は困難という新聞記事が出る。
- 平成23年 「はっち」八戸ポータルミュージアム開館。歩行者31%増となる。
- 平成24年 「はっち」開館後に新規出店や大型民間開発構想が相次いで浮上。
- 平成25年 第2期八戸中心市街地活性化基本計画認定取得。

- 平成26年 旧レック・マルエツ再開発屋外広場の整備を検討。
- 平成27年 市が運営する本のセレクトショップ「ブックセンター」の整備を検討

※第1期(平成20年7月～平成25年3月)では、「はっち」が整備されるまでは、破たんや歩行者数減の悲しいニュースが続いたが、「はっち」整備がきっかけとなり、歩行者数増、民間開発行為が増えていった。

※第2期(平成25年4月～平成30年3月)では、「テーマ」「メインターゲット」を明確にした上で、更なる民間開発の誘引とまちなかの賑わい創出を図っている。

2. 「はっち」のあらまし

建築物敷地面積 3,387㎡

鉄筋コンクリート造 地上5階 高さ23.4m

用地費 785,245千円

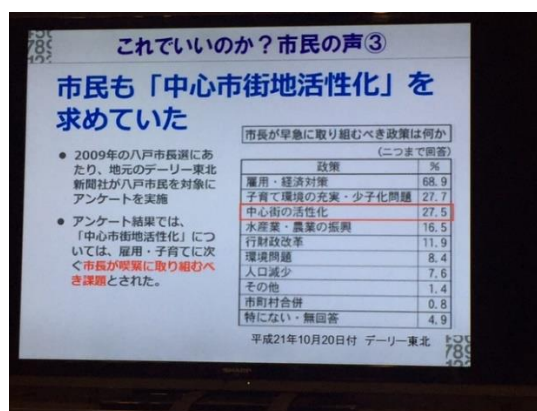
調査設計費 272,326千円

工事費 3,079,335千円

(事業内容)

- ・会所場づくり(誰でも気軽に立ち寄れる空間づくり)
- ・貸館事業(シアター・和室・ギャラリー等の貸館)
- ・自主事業(中心市街地の賑わい創出事業、文化芸術の振興、ものづくりの振興、観光振興)

当日は、パワーポイントを使って、シアタールームでの説明でした！



文章だけではわかりにくいので、写真で説明します。



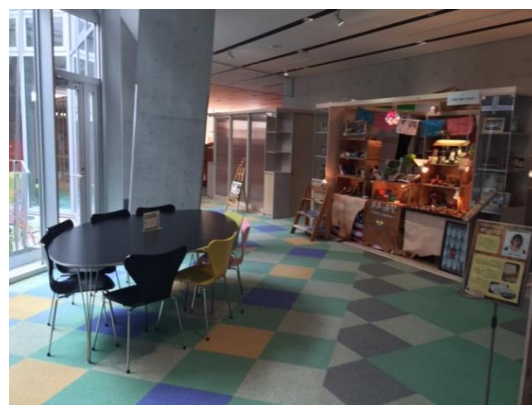
からくり獅子舞仕掛け時計。時を歯うちで！



地元スポーツのコーナーが！



ミニ美術展開催中！



各フロアーにはカフェが！



実際にボランティアしている「まちぐみ」



「和のスタジオ」



こども「はっち」でなんと入場料が100円です。たくさんの遊び場がありました！



「祭り」のコーナーです。



八戸三大大祭ミニ山車展示



えんぶり組人形ジオラマ



当日オンエア中でした(●^o^●)

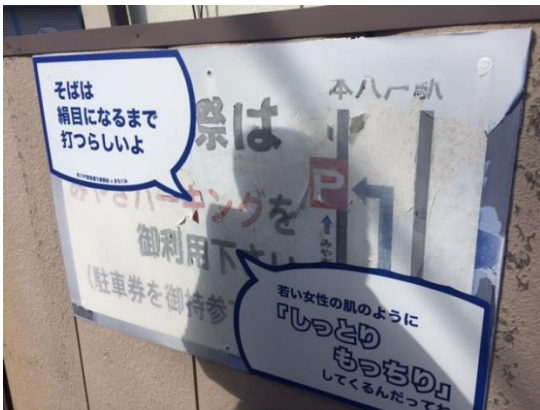


本屋がありました

以上のように、ミュージアムでありながら、市民がつくる参加型施設ということが言えます。「はっち」は何の施設？と聞けば、市民がそれぞれの価値観で自由に楽しむ施設と回答するかもしれません。

歩行者が増えるのも納得です(●^o^●)

最後に、市街には不思議な吹き出しが…。



これは「八戸のうわさ」というものまちのにぎわいプロジェクトだそうです。お店1軒1軒丁寧なコミュニケーションをとり、「うわさ」を制作しました。歩いていてどんな吹き出しなのか大変気になってしまいます。これも上手な戦略の一つです。

(最後に)

「はっち」は極めて充実した市民参加型施設でした。従来ですと、公共施設1つに対し1つの使用目的が従来でした。その常識を覆す新しい発想はあつぱれです。「はっち」を見習い、松戸市独自の公共施設を検討する必要があると感じました。